

授業コード	ナンバリング	開講時期	単位
3126	LB2L100	2024年度前期	2単位
科目名	日本企業論		
担当教員	上田 利博		
資格・免許との関連	ビジネス実務士資格選択科目 秘書士資格選択科目 ビジネス能力検定（B検）ジョブパス（文部科学省後援）3級取得のための選択科目		
学修内容	現代は、ものや情報が世界中を激しいスピードで飛び交い、さまざまな技術が急速に進歩する中で、人びとのくらしや考え方もめまぐるしく変化している。会社は、この中で人々から選ばれ、生き残り、勝ち抜き、成長発展していくために、つねに環境に合わせて変化し、また、世界中の様々な国や地域で進出・撤退を繰り返している。かつては「ジャパン・アズ・ナンバーワン」と言われ、一世を風靡した日本企業の本質を様々な角度から分析・研究することにより日本企業の理解を深めることを意図している。 なお、本科目はビジネスキャリアコースの学修成果【ビジネス実務】『基盤』に該当する。		
学修成果・到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 会社とは何かを理解することができる。 2. 会社の仕組みを理解することができる。 3. 企業研究によって、上記の理解を深めることができる。 4. 企業人、社会人としての基礎力が何たるかを理解し身に着けることができる。 		
授業計画		事前学修及び必要時間	事後学修及び必要時間
第1回	授業ガイダンスと「会社入門」について	まずシラバスを熟読し、本授業での学修目標や 抱負および 自己紹介を 2～3 分で発表できるようにまとめておく(1時間)	講義時に配布した資料の要点を整理する(2時間)
第2回	企業・組織に関する基礎知識Ⅰ（日本企業）	前回の講義終了後に配布するテキストを次回講義までに読んでおくこと(2時間)	講義時に配布した資料の要点を整理する(2時間)
第3回	企業・組織に関する基礎知識Ⅱ（外資系企業）	前回の講義終了後に配布するテキストを次回講義までに読んでおくこと(2時間)	講義時に配布した資料の要点を整理する(2時間)
第4回	日本国内と日本を取り巻くビジネス環境についての理解Ⅰ（グローバルの中の日本）	前回の講義終了後に配布するテキストを次回講義までに読んでおくこと(2時間)	講義時に配布した資料の要点を整理する(2時間)
第5回	日本国内と日本を取り巻くビジネス環境についての理解Ⅱ（日本の雇用慣行）	前回の講義終了後に配布するテキストを次回講義までに読んでおくこと(2時間)	講義時に配布した資料の要点を整理する(2時間)
第6回	日本の企業研究Ⅰ（製造業）	前回の講義終了後に配布するテキストを次回講義までに読んでおくこと(2時間)	講義時に配布した資料の要点を整理する(2時間)
第7回	日本の企業研究Ⅱ（流通・小売業）	前回の講義終了後に配布するテキストを次回講義までに読んでおくこと(2時間)	講義時に配布した資料の要点を整理する(2時間)
第8回	日本の企業研究Ⅲ（建設業）	前回の講義終了後に配布するテキストを次回講義までに読んでおくこと(2時間)	講義終了後に出す課題についてレポートを作成する(2時間)
第9回	日本の企業研究Ⅳ（金融業）	前回の講義終了後に配布するテキストを次回講義までに読んでおくこと(2時間)	講義時に配布した資料の要点を整理する(2時間)
第10回	関西の企業研究（関西でユニークな企業を取り上げる）	前回の講義終了後に配布するテキストを次回講義までに読んでおくこと(2時間)	講義時に配布した資料の要点を整理する(2時間)

第11回	奈良県の企業研究（奈良県でユニークな企業を取り上げる）	前回の講義終了後に配布するテキストを次回講義までに読んでおくこと（2時間）	講義時に配布した資料の要点を整理する（2時間）	
第12回	外資系の企業研究（IT企業）	前回の講義終了後に配布するテキストを次回講義までに読んでおくこと（2時間）	講義時に配布した資料の要点を整理する（2時間）	
第13回	成長し続ける企業の成長要因についての考察	前回の講義終了後に配布するテキストを次回講義までに読んでおくこと（2時間）	講義時に配布した資料の要点を整理する（2時間）	
第14回	成長し続ける企業のマネジメントについての考察	前回の講義終了後に配布するテキストを次回講義までに読んでおくこと（2時間）	次回のプレゼンに向けて最終チェックをする（2時間）	
第15回	最終プレゼン、まとめとふりかえり	全講義資料の読み直し（2時間）	これまでの講義内容を総復習する（3時間）	
定期試験内容・方法について				
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
特に指定はしない。必要な資料は都度配布する。,,,				
参考書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
日本経済新聞、日経ビジネス,,,				
成績評価方法・基準				
評価方法	評価割合		評価基準	
授業への参画度	30%		授業への参画態度を総合的に評価する	
都度課題の提出	30%		課題の出来栄えと提出状況を評価する	
レポート提出	20%		正確な説明ができていないかを評価する	
小テスト	20%		授業内容を理解しているかを評価する	
備 考				
フィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・講義テキストについては、必要に応じて全体にコメントします。 ・事前課題についても必要に応じて全体にコメントします。 ・レポートは提出後の授業で重要なポイントを全体にコメントします。 			
実務経験のある教員による授業科目		実務家教員である		
授業内容（実務家教員）		民間企業で営業・人事・経営の各戦略策定と部門マネジメント経験のある教員が、日本企業の本質を様々な角度から分析・研究することにより、日本企業の理解を深める講義を行う。		